

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2019.6.14

No.457



2019年夏のボーナス調査

株式会社青森銀行と一般財団法人青森地域社会研究所では、県内の給与所得者を対象にボーナスの受給状況や現在の暮らし向きなどを探ることを目的とし、毎年夏・冬の年2回、「ボーナスと最近の暮らし向き調査」を実施しております。このたび、調査結果がまとまりましたのでお知らせいたします。

【調査要領】

- 調査対象者 県内在住の男女給与所得者
- 調査時期 2019年5月中旬～5月下旬
- 配布・回収枚数 配布枚数 1,000枚
回収枚数 947枚（回収率94.7%）

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計	構成比
10代	1	3	4	0.4%
20代	91	126	217	22.9%
30代	95	137	232	24.5%
40代	124	158	282	29.8%
50代	77	103	180	19.0%
60代以上	11	21	32	3.4%
独身	139	246	385	40.7%
既婚	260	302	562	59.3%
民間企業	241	441	682	72.0%
公務員	158	107	265	28.0%
合計	399	548	947	100.0%

【調査結果の概要】

- ◆夏のボーナスの受給見込者の割合は全体の約9割であった。
- ◆夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏の実績を7千円上回る33万2千円となった。前年実績を上回るのは8年連続となる。
- ◆最近の暮らし向き調査では、2018年冬に比べ「良くなった」とする割合が1.2ポイント減少、「悪くなった」とする割合は1.3ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は46.6となり、横ばいの動きで推移している。

1. 夏のボーナス調査

(1) ボーナス支給見込み

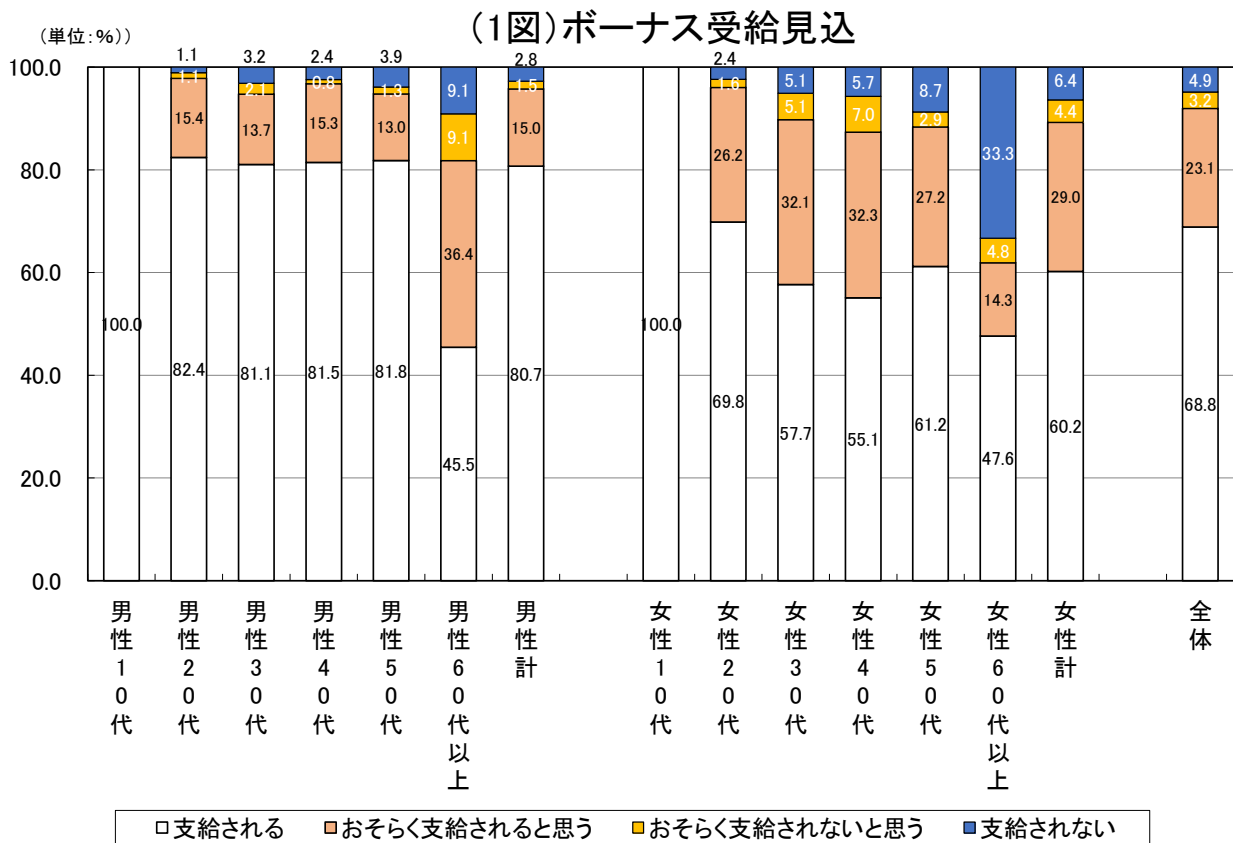
- ・ 支給見込み割合は全体の約 9 割

夏のボーナスの有無を聞いたところ、「支給される」との回答は 68.8%、「おそらく支給されると思う」との回答は 23.1%で、支給見込み割合は 91.9%であった。

男女別では男性の 95.7%に対して女性は 89.2%と 6.5 ポイントの開きがあった。

また男女別・年代別では、男女とも 10代から 50代では約 9割が支給見込みとなっている。一方、60代以上を見ると、60代以上男性は 81.9%、60代以上女性は 61.9%となっている。

(以上、1 図)



(2) ボーナス受給見込額

・平均 33 万 2 千円、昨年受給実績を 7 千円上回る見込み

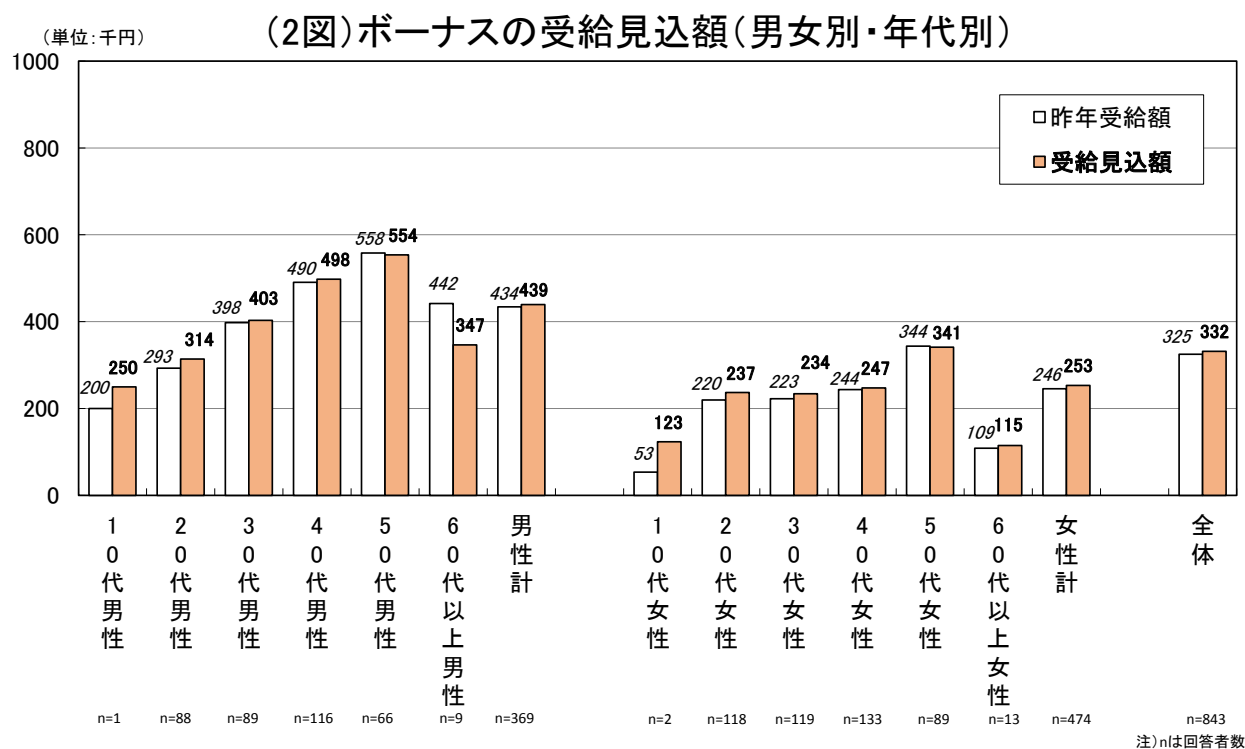
今夏のボーナス受給見込額は、平均で 33 万 2 千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均 32 万 5 千円)を 7 千円上回る見込みである。

男女別・年代別にみると、最も見込額が大きかったのは 50 代男性の 55 万 4 千円、次いで 40 代男性の 49 万 8 千円、30 代男性の 40 万 3 千円などの順となった。また、10 代男性、10 代から 40 代女性と 60 代以上女性は 30 万円を下回る見込みである。

男女別の平均見込額を比較すると、男性が 43 万 9 千円、女性は 25 万 3 千円となった。

男女別・年代別に今夏の見込額と昨年夏の受給実績額との開きをみると、開きが大きかったのは 60 代以上男性(△9 万 5 千円)、10 代女性(+7 万円)、10 代男性(+5 万円)であった。

(以上、2 図)

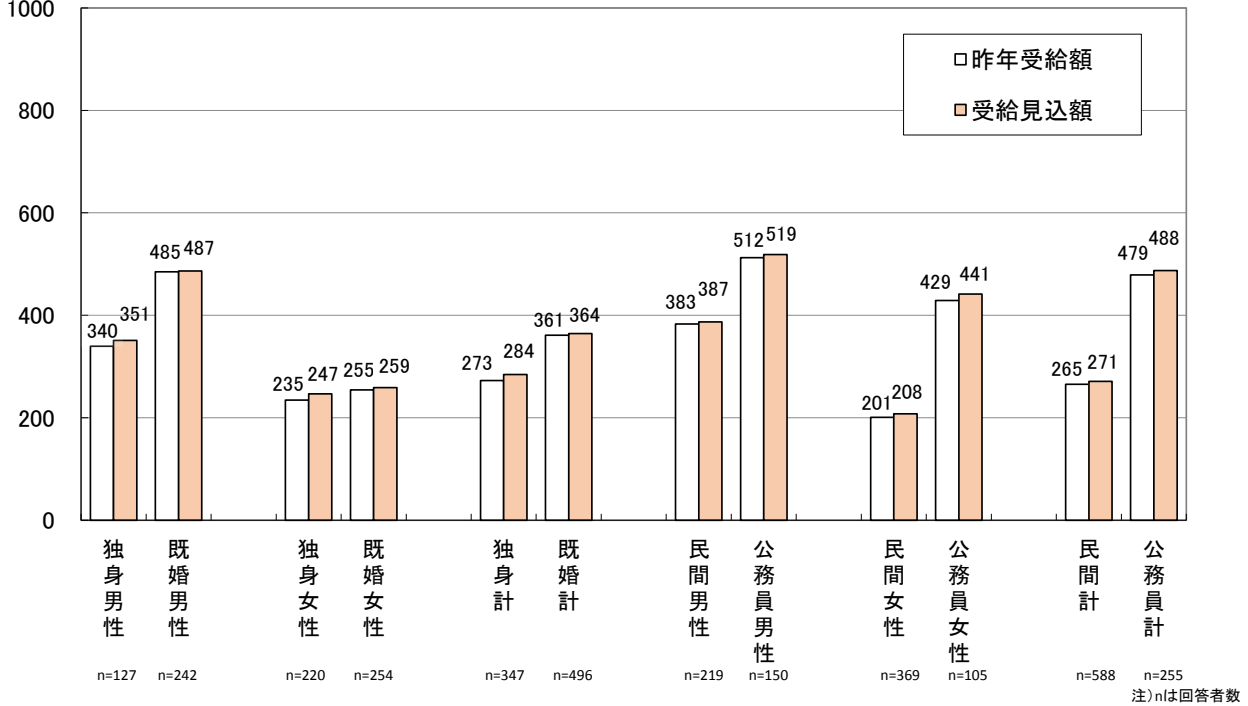


受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が 28 万 4 千円、既婚者が 36 万 4 千円となった。昨年夏の受給実績に比べ独身者が 1 万 1 千円、既婚者は 3 千円上回る見込みである。

民間・公務員別では、民間が 27 万 1 千円、公務員が 48 万 8 千円となった。昨年夏の受給実績額に比べ民間が 6 千円、公務員は 9 千円上回る見込みである。

(以上、3 図)

(単位:千円) (3図) ボーナス受給見込額(独身・既婚、民間・公務員別)



夏のボーナス受給見込額について 2009年以降の推移をみると、2009年はリーマンショックの影響で見込額が大幅に落ち込んだ。しかしながら、2012年以降は緩やかな景気回復が進み、前年実績を上回る

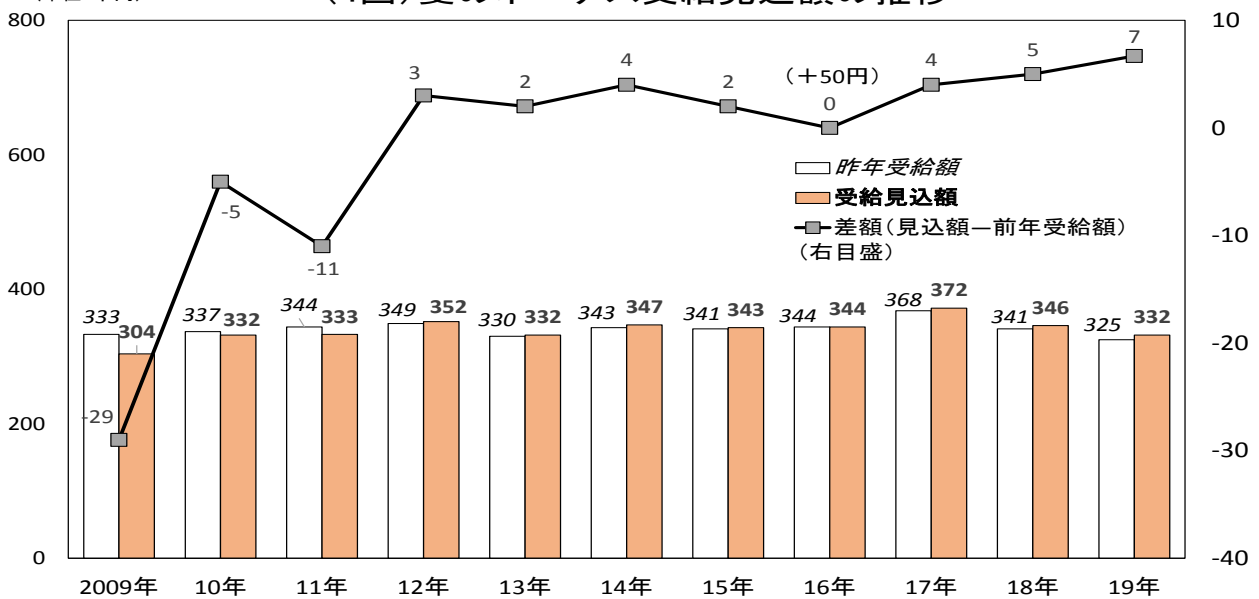
受給見込額が続いている。こうした傾向は本年も変わらず、8年連続で前年実績を上回る見込みである。こうしたことから、ボーナスの受給状況は改善傾向が続いているとみられる。

(以上、4図)

(単位:千円)

(4図) 夏のボーナス受給見込額の推移

(千円)



(3) ボーナスの希望額

・平均 42 万 3 千円

今夏のボーナス希望額は、平均で 42 万 3 千円となり、平均受給見込額 33 万 2 千円との間に 9 万 1 千円の開きがみられた。

男女別の平均希望額を比較すると、男性が 55 万 6 千円、女性は 32 万 6 千円となり、男性が女性を 23 万円上回った。

男女別・年代別の平均希望額をみると、50 代男性が 68 万 6 千円でトップとなり、次いで 40 代男性の 62 万 7 千円などとな

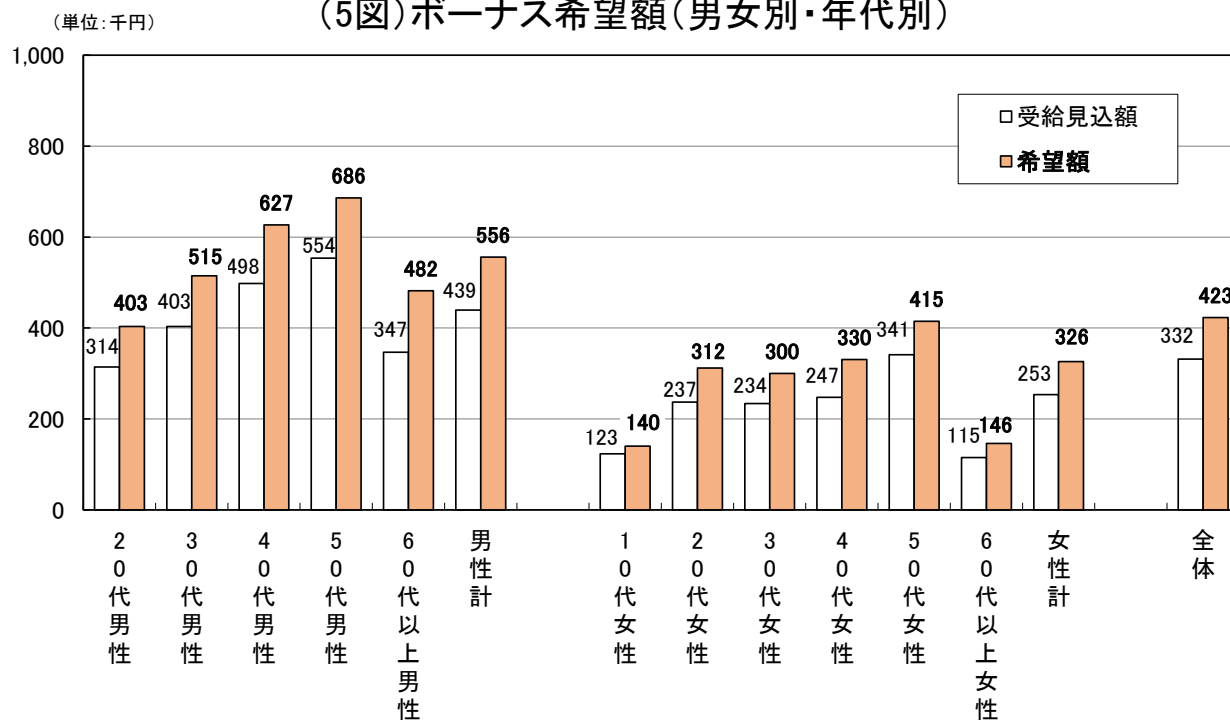
った。

希望額と受給見込額との開きを年代別にみると、60 代男性が 13 万 5 千円で最も大きかった。

独身・既婚別にみると、既婚者は独身者に比べ開きが大きかった。また、民間・公務員別では民間が公務員に比べ開きが大きかった。

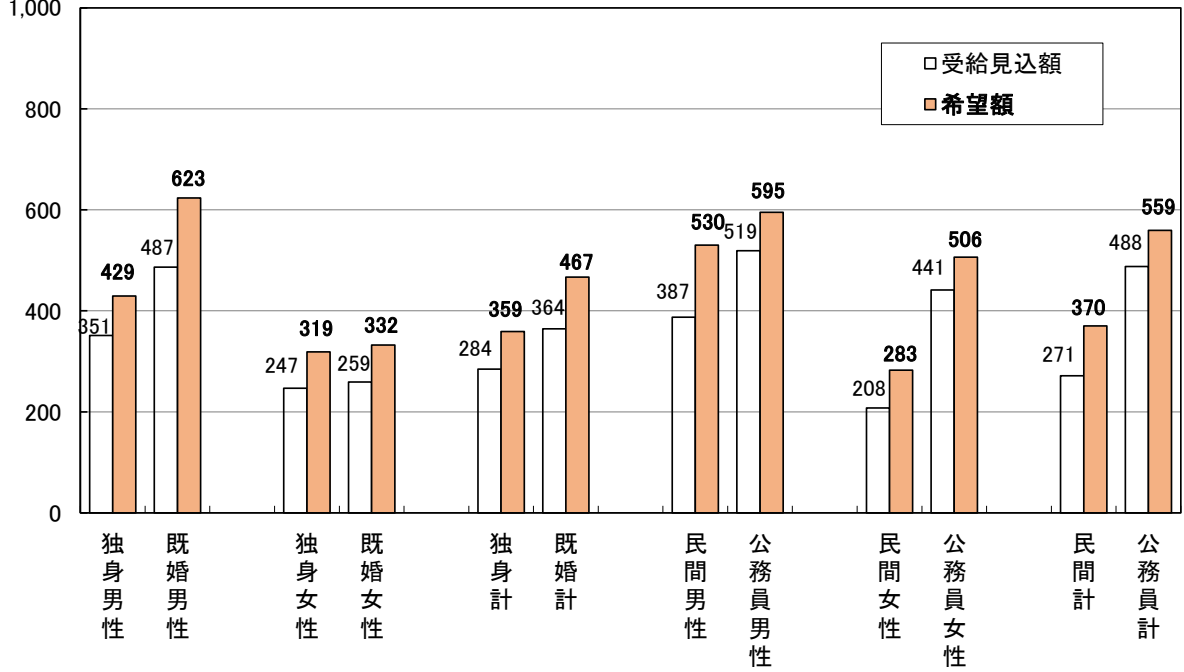
(以上、5、6 図)

(5図) ボーナス希望額(男女別・年代別)



(6図)ボーナス希望額(独身・既婚別、民間・公務員別)

(単位:千円)



2. 最近の暮らし向き調査

・「最近の暮らし向き指数」は横ばいの動きが続くが、「今後の暮らし向き指数」は低下

「昨年の今頃に比べて最近の暮らし向きはいかがですか」との問いに対しては、2018年冬に比べ「良くなった」とする回答が1.2ポイント減少の5.8%、「悪くなった」は1.3ポイント減少の12.6%となり、「変わらない」は2.5ポイント増加の81.6%となった。この結果、「最近の暮らし向き指数」(7図、注1参照)は2018年冬と比較し、横ばいの46.6となった。

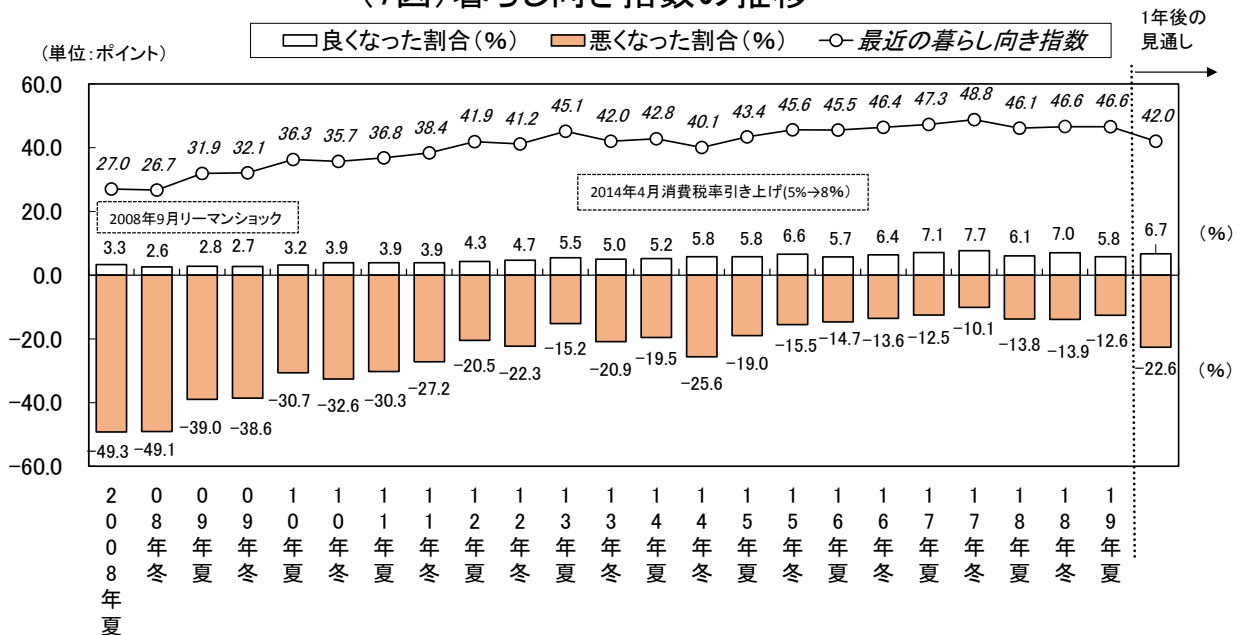
「最近の暮らし向き指数」の2008年夏からの推移をみると、08年夏・冬は、08年9月に発生したリーマンショックの影響等により20ポイント台後半となり、09年夏・冬も景気後退期が続いていることなどから30ポイント台前半となった。その後は景気拡張期が続いたことなどから40ポイント台半ばまで改善したが、14年4

月の5%から8%への消費税率引き上げの影響等により14年冬は40.1ポイントまで低下している。15年夏以降は40ポイント半ばから後半で横ばいの動きが続いている。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、現在に比べ「良くなる」割合が0.9ポイント増加の6.7%、「悪くなる」は10.0ポイント増加の22.6%となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」(7図、注2参照)は42.0となり、「現在の暮らし向き指数」を4.6ポイント下回った。こうした結果は、今年の10月に予定されている8%から10%への消費税率引き上げなどが影響しているものと考えられる。

(以上、7図)

(7図) 暮らし向き指数の推移



注1: 最近の暮らし向き指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0

注2: 今後の暮らし向き指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

「最近の暮らし向き指数」を男女別にみると、男性の 48.6 に対し女性は 45.1 と 3.5 ポイントの開きがあった。年代別にみると、20 代が 51.6 と最も高く、次いで 10 代、30 代などとなっており、60 代以上は 38.7 と最も低くなっている。

「今後の暮らし向き指数」を男女別にみると、男性の 43.8 に対し女性は 40.7 と 3.1 ポイントの開きがあった。年代別にみると、10 代が 50.0 と最も高く、次いで 20 代、

30 代などとなっており、60 代以上は 28.3 と最も低くなっている。

年代別に「今後の暮らし向き指数」と「最近の暮らし向き指数」を比較すると、10 代を除く全ての年代で、「今後の暮らし向き指数」が「最近の暮らし向き指数」より低くなっている。特に、50 代は 7.4 ポイント、60 代以上は 10.4 ポイント低くなっており、老後の生活の柱となる公的年金に対する不安などが影響しているものと考えられる。

(以上、1 表)

(1表) 暮らし向きについての見方(属性別)

(単位:ポイント)

	最近の暮らし向き指数	今後の暮らし向き指数	対比
男性	48.6	43.8	-4.8
女性	45.1	40.7	-4.4
独身	49.2	44.0	-5.2
既婚	44.8	40.7	-4.1
民間	46.0	41.7	-4.3
公務員	48.1	43.0	-5.1
10代	50.0	50.0	0.0
20代	51.6	48.4	-3.2
30代	48.5	43.2	-5.3
40代	45.7	43.1	-2.6
50代	40.7	33.3	-7.4
60代以上	38.7	28.3	-10.4
全体	46.6	42.0	-4.5

以上

[本件に関する照会先]

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当: 長尾 匡道 TEL: 017-777-1511